

<講座詳細一覧>

2024年 1月開講講座について、講座毎に「授業日程」「講座内容」「講師からひとこと」「講師プロフィール」などを掲載してありますので、ご覧ください。

なお、講座内容、日程については、記載されている内容から一部変更される場合がございますので、ご了承くださいませようようお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、下記電話番号まで、お問い合わせさせていただきますようお願い申し上げます。

古文書塾 “てらこや”

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園 1-4
日比谷図書文化館 4階

TEL 03-3502-3340

FAX 03-3502-3341

(日比谷図書文化館 代表番号)

<<受講料>> (初回一括払い)

入門コース・・・16,800円(120分 全5回)

本科コース・・・16,800円(120分 全5回)

特別講座・・・13,650円(90分 全5回)

特設・月1回・・・8,190円(90分 全3回)

<<資料代>> (初回一括払い)

入門コース・・・500円

本科コース・・・500円

特別講座・・・500円

特設・月1回・・・300円 ※

※ 特設月1回コース「ハーバード大学蔵『源氏物語 須磨』を読む」には、別途テキスト、同『源氏物語 須磨』(1,760円 税込 / 2013年 新典社)が必要です。(当館でのご用意も承ります)

★開講日 4F 受付にて 現金でお支払いをお願い致します。

[講座名] 入門コース (初心者向け)

古文書のいろは

—筆字のくずし字



[講師]

井坂 綾 下向井紀彦 今野大輔 蒲生眞紗雄

[講座内容]

くずし字が読めるようになりたい。でも最初の一步が踏み出しにくい、という方のための講座です。くずし度の小さい江戸の手習い手本を用いて、読解の手順とコツを学びましょう。「くずし字辞書」を使ったり、毛筆、硬筆での筆写も併用して実践的な力を養います。ついで版本のくずし字や武家・村方の文書など、多様な文書に挑戦し、江戸のくずし字の奥深い魅力に触れつつ、読解力・応用力をつけていきましょう。展覧会や博物館で、くずした文字に出会ったら、大体の見当はつくというようになりたいですね。

[講師プロフィール]

[井坂綾]

専門は幕末から近代にかけての江戸・東京の文化です。学芸員として掛軸に書かれた書跡や書簡・日誌などを扱っています。

[今野 大輔]

日本民俗学を専門にしており、柳田國男の書簡や原稿などのような、近代のくずし字資料を中心に扱っています。

[下向井 紀彦]

専門は近世流通経済史。主に三井越後屋の仕入・販売、近世瀬戸内港町 (特に尾道) の商業・産業・地域振興策などを研究しています。

[蒲生 眞紗雄]

専門は近世政治史。東叡山寛永寺護国院や本所御蔵・陸軍被服廠跡などの発掘調査で文献調査を担当し、現在は新宿区の宗参寺遺跡の文献調査に従事しています。

[授業日程]

月曜日クラス【朝】 10:30~12:30 (井坂)

日程: 全5回 (1/22、2/5、2/12、2/26、3/11)

月曜日クラス【昼】 13:30~15:30 (今野)

日程: 全5回 (1/22、2/5、2/26、3/11、3/25)

火曜日クラス【朝】 10:30~12:30 (下向井)

日程: 全5回 (1/16、1/30、2/13、2/27、3/12)

木曜日クラス【昼】 13:30~15:30 (蒲生)

日程: 全5回 (1/18、2/1、2/15、2/29、3/14)

金曜日クラス【昼】 13:30~15:30 (今野)

日程: 全5回 (1/19、2/2、2/16、3/8、3/22)

金曜日クラス【夜】 18:30~20:30 (蒲生)

日程: 全5回 (1/19、2/2、2/16、3/8、3/22)

※ 各クラスの間で振替出席が可能です。

【講座名】 入門コース（経験者向け）

いろはの次

「いろは」と「本科」の中間のクラスはないだろうか、
こうしたご希望に応えようというのが「いろはの次」
です。くずし字の判読についても「いろは」同様丁寧に
解説すると同時に、ある程度まとまった史料を
読み、内容も楽しんでまいりましょう。

いろはの次

—大江戸大變



【講師】 岩崎 信夫

月曜日 18:30～20:30

日程：全5回（1/22、2/5、2/26、3/11、3/25）

【講座内容】

江戸時代は厳しい身分社会でした。「家」に生まれ、その一員として生まれながらに身分が決まっておき、住居をはじめ、着るもの食べるもの、生業など全て身の程をわきまえねばならない、そして身分の中の身分の階段を昇って、次代に「家」を無事引き渡す、重い荷を背負った生涯を求められたのでした。とは言え現実には多様、多彩。大名家に生まれた水野忠精の日記などから、このテーマに迫りたいと思います。

忠精は天保の改革で失脚した忠邦の嫡子、1862（文久2）年3月、31歳で老中に昇進しました。翌年2月將軍家茂は公武合体路線の下、上洛の途につき、忠精は供奉します。いかなる事態が待っているのでしょうか。

【講師からひとこと】

くずし字の魅力は尽きることがありません。なぜこのような字形になるのだろう、筆順はどうなっているのだろう、などから始まって、一字一字の判読に止まらず、結局は文字の歴史にまで視野が広がります。こうした点を押さえながら文書の内容も楽しみたいと思っています。

【講師プロフィール】

東京・目黒をフィールドに、目黒区めぐろ歴史資料館の「武島家文書目録」などの編纂に参加、武嶋家文書を読む会として『東北大学本浮浪追討記』『武嶋家本浮浪追討記』を翻刻、同書で活躍する別手組やその身分について「幕末別手組の活動と身分」（『日本歴史』2013年10月号）にまとめました。

いろはの次

—古文書いろいろ



【講師】 出口 宏幸

午前クラス 火曜日 10:30～12:30

午後クラス 火曜日 13:30～15:30

日程：各全5回（1/9、1/23、2/6、2/20、3/5）

※各クラスの間で振替出席が可能です。

【講座内容】

江戸時代には多くの古文書が作成されました。とくに、17世紀後半を境にその数は増加し、支配関係だけでなく、商売や町・村に関するものも多く作成されました。内容も多種多様で、当時の社会がどのようなものであったのか、隅々まで文字から読み取ることができます。士農工商といわれる身分制の社会は、どのように機能し、支えられたのでしょうか。政治、経済、社会という、あらゆる垣根を飛び越え考えます。今も昔も、文字には書く人それぞれの特徴がありますが、「いろは」よりも少しだけ難しいくずし字を読みながら、多様なくずし字の世界に触れていただければと思います。

【講師からひとこと】

江戸時代を楽しみましょう。表向きは265年もの間、武士が年貢を徴収することで維持された社会ですが、実は初期と中期、後期では社会は大きく変わりました。さまざまな古文書を読みながら、映画やドラマでは描かれない興味深い話も交えながら進めていきたいと思います。

【講師プロフィール】

江戸時代の漁業（漁村）史を研究しています。千葉県南部や江戸前をフィールドに、沿岸漁業権の成立や江戸近郊の猟師町などの古文書を調査しつつ、市区町村の歴史をまとめた自治体史の編さんにも携わってきました。2011年には『江戸内海猟師町と役負担』（岩田書院）をまとめました。

【講座名】 本科コース

文人画と碑文

—掛軸を読む



【講師】 黒川 桃子

日曜日 13:30~15:30

日程：全5回（1/28、2/18、2/25、3/10、3/24）

【講座内容】

くずし字と漢詩文、この二つを自由に読みこなせれば、多くの展覧会でもっと楽しめるはず、そう思った経緯は誰にも一度はあるのではないのでしょうか。本講座で扱うのは、碑文の拓本や文人画に題された詩など、美術的、歴史的にも価値ある作品です。くずし字と漢詩文の両方を学びながら、豊穡な文人世界を読み解きたいと思っています。

【講師からひとこと】

文人画は、従来主として美術史家の研究対象でしたが、そのために画の余白に書き込まれた画讃、題画詩の解説はあまり重視されて来ませんでした。しかし中国士大夫の余技として始まった文人画は、深甚な中国古典の教養の上に立って、あくまでも読む画なのです。詩を読めば、時に視覚だけでは得られなかった新しい景色さえ眼前に広がるでしょう。一幅の画の味わい、碑文の語るものがたり、その魅力を皆さんにお伝えできればと思っています。

【講師プロフィール】

清泉女子大学ほか非常勤講師。広瀬炎窓ら九州の詩人を研究対象とするほか、文人画や女性詩人にも関心を寄せている。主要論文に「広瀬炎窓の陸游詩受容—『論詩詩』を中心に」、 「江馬細香自画賛「墨竹図」考—その光の表現をめぐる」、 「近世女性詩人の誕生」

【講座名】 本科コース

古文書の保存・修復の知技能

—古文書保存のセラピスト講座



【講師】 青木 睦

火曜日 13:30~15:30

日程：全5回（1/16、1/30、2/13、2/27、3/12）

【講座内容】

古文書は、英語でアーカイブズ archives といいます。興味を持たれている方も多いのではないのでしょうか。古文書の素材として馴染み深い和紙“を「モノ」として保存する場合、身近に接する人は、損傷・劣化から守り、修復などを施し、永く保存していくため、セラピストとして癒し治療する役割を果たしていかなければなりません。アーカイブズである江戸時代の古文書はどのように保存されてきたのか。ユネスコの世界の記憶遺産となった東寺百合文書の事例や黄門様、徳川光圀の古文書修復の事例なども紹介します。最先端の専門的修復技術に触れていただきながら、これまでの保存修復を振り返り、今後の課題を探ります。

【講師からひとこと】

アーカイブズの保存・修復の知技能を修得するためのセラピスト講座です。保存環境・条件の整備、具体的な措置（保存容器や保護紙等による保護）、保存のためのデジタル化、保存を考えた取扱方などがあげられます。保存イコール修復ではありませんが、その技術を知っていることは必須ですので、身近な用具でできる修復の方法と技術を紹介します。

【講師プロフィール】

1981年から2023年3月まで、国文学研究資料館に勤務、紙資料を主としたアーカイブズの保存修復に関する調査研究が専門です。文化財保存修復学会業績賞を(2011年)受賞。『被災資料救助から考える資料保存 東日本大震災後の釜石市での文書レスキューを中心に』（けやき出版、2013年）などがあります。

【講座名】 本科コース

武家文書を読む

—幕府崩壊事情



【講師】 岩崎 信夫

水曜日 13:30~15:30

日程：全5回（1/17、1/31、2/14、3/6、3/20）

【講座内容】

徳川幕府は、他の諸大名を圧する広大な領地を持ち、その経済力、軍事力は卓越していました。法律や制度の制定も、貨幣の発行も意のままでした。その幕府が、ペリー来航以来僅か15年でなぜ滅んだのでしょうか。幕府に危機感がなかったわけではありません。何を行おうとし、何が出来なかったのでしょうか。天保の改革まで遡って検討してみたいと思います。テキストは改革を主導した老中、水野忠邦の日記です。今期は1842（天保13）年、具体的な政策展開の時期を読み進みます。

【講師からひとこと】

文書の大きな筋を読み解くことを中心にしなが、近世のくずし字の大事な要点では、くずし方や筆順などを丁寧に追いかけてみたいと思います。文書自体の持つ魅力、内容をいくらかでも引き出せたらと思っています。

【講師プロフィール】

東京・目黒をフィールドに、目黒区めぐろ歴史資料館の「武島家文書目録」などの編纂に参加、武嶋家文書を読む会として『東北大学本浮浪追討記』『武嶋家本浮浪追討記』を翻刻、同書で活躍する別手組やその身分について「幕末別手組の活動と身分」（『日本歴史』2013年10月号）にまとめました。

【講座名】 本科コース

幕末・江戸庶民の世相を読む

— 「弘化雑記」の世界



【講師】 小沢 詠美子

木曜日 10:30～12:30

日程：全5回（1/11、1/25、2/8、2/22、3/7）

【講座内容】

弘化2年(1845)、いったんは再任された老中を再び罷免された水野忠邦が、減奉・蟄居を命じられたことにより、天保の改革が事実上挫折したといえる弘化年間(1844～47)の世相を、「弘化雑記」から読み解いていきます。この時期は、幕府が崩壊に向かう序章とも言える時期で、興味深い出来事が多々発生しているのです。なお、「弘化雑記」とは内閣文庫に所蔵されている史料で、政治的な諸事件や市井の事件、災害など、多岐にわたる記録です。この中から、江戸に関する記述を中心に読み進めていきたいと考えています。

【講師からひとこと】

ただ単に文字を読み解くだけ、ということではなく、当時の社会背景や、その時代だからこそ発展できた文化など、江戸の特性について深く掘り下げてご紹介していきます。都市・江戸に興味を持ち、考察を広げていただければ幸いです。私も、受講生の皆様と一緒に勉強させていただきたいと思えます。

【講師プロフィール】

専門は近世都市史。成城大学民俗学研究所研究員、同学非常勤講師。おもな著書に『お江戸の経済事情』『江戸時代の暮らし方』など。NHKドラマ「西郷どん」「みをつくし料理帖」などの風俗考証担当。

【講座名】 本科コース

くずし字で楽しむ

江戸歌舞伎



【講師】 埋忠 美沙

土曜日 13:00～15:00

日程：全5回（1/20、2/3、2/17、3/2、3/16）

【講座内容】

本講座ではくずし字を学びながら歌舞伎に親しんでいただくことを目的としています。今期は『夏祭浪花鑑』の浄瑠璃正本と歌舞伎台本をテキストにします。上方の侠客たちの意地や達引を描いた本作は、1745年に人形浄瑠璃として初演、すぐに歌舞伎にとなり、現在まで度々上演される人気演目です。台本でくずし字を学びながら、作品の背景や、演技演出についてお話します。

【講師からひとこと】

長編の物語ですが、今期は「釣船三婦内」を中心に扱います。人形浄瑠璃と歌舞伎の上演を比較しながら、視覚資料も用いながら丁寧に読み進めますので、両芸能の知識がなくても安心してご参加ください。くずし字のレベルは、基本的なひらがなは読めるものとして進めてゆきます。

【講師プロフィール】

専門は江戸と明治の歌舞伎。お茶の水女子大学准教授。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、早稲田大学文学部講師、同大演劇博物館講師などを経て現職。著書に『江戸の黒阿弥——善人を描く』（春風社、2020）。

【講座名】 特別講座

大久保利通の

手紙を読む



【講師】 桐野 作人

火曜日 19:00～20:30

日程：全5回（1/9、1/23、2/6、2/20、3/5）

【講座内容】

大阪会議で木戸孝允・板垣退助の政府復帰を実現し、さらに旧主島津久光との対決を斥けたものの、大久保の苦闘はまだ続きます。政府は湧き上がる自由民権運動に対して、讒謗律・新聞紙条例など言論統制による強硬姿勢で臨みます。その一方で、外交問題ではロシアとの間で千島・樺太交換条約を締結したものの、朝鮮国との間で江華島事件が勃発し、その戦後処理に苦労します。しかし、大久保は持ち前の粘り強さでこれらの難問を解決していきます。内務卿大久保の真骨頂をみていきます。

【講師からひとこと】

本講座は、くずし字の解読ではなく、活字になった史料（手紙・建白書・日記など）を読みながら、記主の行動や思い、当時の時代背景などを、他の関連史料とともに探り、考えていく講座です。初心者の方でも関心のあるテーマや人物であれば、興味深く読めて、より深い理解が得られるよう努めます。

【講師プロフィール】

歴史作家。出版社の編集長を経て作家活動に入る。幕末維新史や織豊期を中心に執筆・研究・講演を行う。主な著書に『龍馬暗殺』『西郷隆盛という生き方』『村田新八』『孤高の将軍徳川慶喜』『さつま人国誌』幕末・明治編1～3『織田信長—戦国最強の軍事カリスマ—』など多数。

【講座名】 特別講座

開国ニッポンの外国人

【講師】 熱田 充克



水曜日 13:30~15:00

日程：全5回（1/10、1/24、2/7、2/21、3/13）

【講座内容】

幕末・明治期に日本にやってきた外国人に注目します。異文化の担い手が日本の習慣や文化と出会った時、どんな化学変化が起きたのでしょうか。その結果、日本では何か変わったのか。どんな新しい動きがあったのか。また外国人自身は日本でどんな影響を受けて何を学んだのでしょうか。毎回、個別の外国人を取り上げて、その人にまつわる様々な出来事やエピソードをご紹介します。それをドキュメンタリー番組のタッチでお伝えするのがこの講座の特徴です。歴史の教科書に出てくる有名人だけでなく、ほとんど知られていない外国人も登場します。毎回違うテーマで番組は進行します。初めて受講する方にも違和感のない講座です。是非ご参加下さい。

【講師からひとこと】

「開国ニッポン」に住んだ外国人について、できる限り一次資料を探して、その人のライフヒストリーを組み立てていきたいと思っています。毎回、様々な国籍、年齢、性別、職業、目的を持った人たちの足跡を追いかける作業をしています。そうすると、日本側の資料だけでは見えなかった当時の社会背景が浮き上がってきます。テーマは政治、経済、社会問題、文化、風俗など様々な分野を取り上げます。100年前、150年前にタイム・スリップして、当時の外国人とともに日本を探る旅に出かけましょう。

【講師プロフィール】

毎日新聞記者を経て、フジテレビ報道局へ。在職中に調査報道番組「検証・C型肝炎」で新聞協会賞などを受賞。パリ特派員時代から20年間の長期取材で『パリの漆職人 菅原精造』（白水社）を出版。異文化の交流にとても興味を持っています。会社退職後、現在はフリー・ジャーナリスト。日本記者クラブ会員。家具道具室内史学会会員。

【講座名】 特別講座

江戸を楽しむ

—江戸の寺社あれこれ



【講師】 浦井 祥子

木曜日 18:30~20:00

日程：全5回（1/11、1/25、2/8、2/22、3/7）

【講座内容】

本講座は、江戸について楽しく学んでいただくことを主旨としています。その期のテーマに沿って、文字史料や絵画史料を適宜使いつつ、お話をさせていただきます。今期は、引き続き「江戸の寺社」がテーマです。江戸時代、公家・武家・町人など、あらゆる階層の人びとにとって、寺院や神社は身近な存在でした。寺社文書などを繙くと、当時の宗教（信仰）のあり方、葬儀・墓の形式、寺社と盛り場の様子など、さまざまなものが見えてきます。いくつかの寺社文書と、それに関係する文書などを用いながら、江戸の寺社について、あれこれ楽しく学んでみたいと思います。初めての方もどうぞおいで下さい。

【講師からひとこと】

史料として一部くずし字の史料を使用しますが、くずし字の基礎的な知識や読解の経緯は問いません。江戸時代に興味のある方に、さらに江戸を楽しむきっかけになっていただけたらと思います。

【講師プロフィール】

専門は近世史。台東区文化財保護審議会委員、徳川林政史研究所特任研究員。江戸の時刻制度を中心に、江戸～明治期について研究している。著書に『江戸の時刻と時の鐘』、共編に『浅草寺日記』などがある。

【講座名】 特別講座

江戸・明治の書状を読む

—形式と内容、一步から



【講師】 藤富 史花

金曜日 18:30~20:00

日程：全5回（1/12、1/26、2/9、3/1、3/15）

【講座内容】

本講座は、くずし字で書かれた候文に親しみ、読解できるようになることを目的としています。主に江戸後期～明治期の志士や儒者、文人、政治家などが書いた書状を扱い、かなだけではなく、漢字のくずし字にも多く触れていただきたいと考えています。書状の形式や、候文特有の言葉遣いなどについても解説しながら、一次史料を読むおもしろさを感じていただければと思います。

【講師からひとこと】

書状と一口に言っても、そこに書かれている内容は人事万般、多岐にわたります。それを読むだけでも大変興味深いのですが、書き手の人柄や、宛先の人物との関係性までもが浮かび上がってくることが、手紙を読む醍醐味の一つではないでしょうか。くずし字読解の経緯があると書状にスムーズに入っただけかと思えます。

【講師プロフィール】

専門は江戸後期の漢詩文。江湖寺社の柏木如亭・大窪詩仏・菊池五山などを中心に、江戸後期の文人について興味関心を持ち、研究しています。

特設・月1回コース

翻字者育成講座

〔協力・NPO法人〈源氏物語電子資料館〉〕



〔講師〕 伊藤 鉄也

変体仮名の翻字ができる方が、一人でも多く育ってほしいと願って開講する講座です。「翻字」とは、元の文字を正確に復元させるための移し換えのことで、毎月1回 金曜日午後90分の講座ですが、扱うテキストの相違により二講座あります。

※「ハーバード大学蔵『源氏物語 須磨』を読む」講座は、別途テキスト、同『源氏物語 須磨』（伊藤編 新典社 2013年）をご用意ください。

〈弊塾でのご用意も承ります。〉

〔講座名〕 特設・月1回コース

ハーバード大学蔵

『源氏物語 須磨』を読む

金曜日 13:00～14:30

日程：全3回（1/12、2/9、3/1）

〔講座内容〕

本講座で読むのは、鎌倉時代中期に書写された現存最古の古写本の一つであり、美しい美術品です。講師が編集した教科書『ハーバード大学美術館蔵 源氏物語 須磨』（伊藤編、新典社）を使い、昨秋より読み続けています。鎌倉時代以降の仮名文や変体仮名が読めるようになる技術の習得が、当面の目標です。どの回からでも参加できるようになっています。

〔講師からひとこと〕

変体仮名の翻字ができる方が、一人でも多く育ってほしいと願って開講しています。「翻字」とは、元の文字を正確に復元させるための移し換えのことです。そして、自由に読めるようになった方は、講師主宰の本文データベースを構築する作業で腕を磨いてください。

〔講師プロフィール〕

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉代表理事。博士（文学、大阪大学）。主編著は、『源氏物語別本集成-正統 22巻』、『源氏物語受容論序説』、『源氏物語本文の研究』、『もっと知りたい 池田亀鑑と「源氏物語」全4集』、『日本古典文学翻訳事典 1・2』、『平安文学翻訳本集成』他多数。

〔講座名〕 特設・月1回コース

重要文化財・陽明文庫蔵

『源氏物語 桐壺』を読む

金曜日 15:30～17:00

日程：全3回（1/12、2/9、3/1）

〔講座内容〕

重要文化財に指定されている陽明文庫本『源氏物語 桐壺』の影印資料を、平仮名の元になった文字（字母である漢字、変体仮名）を確認しながら丹念に進めます。近年話題となっている「くずし字」のうち、木版本ではなく筆で書かれた手書きの写本が読めるようになります。古写本の影印資料は、参考資料と共に毎回配布します。

〔講師からひとこと〕

この陽明文庫が所蔵する古写本は、鎌倉時代に書写された『源氏物語』の貴重な写本です。講師が編集した『源氏物語別本集成 正・続』の底本に採用されたものです。現代の活字本で本を読むこととの違いを、本講座を通して実感してください。仮名文字を一字ずつ確認しながら読み進めるので、古写本を読む技術も一緒に身につきます。

〔講師プロフィール〕

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉代表理事。博士（文学、大阪大学）。主編著は、『源氏物語別本集成-正統 22巻』、『源氏物語受容論序説』、『源氏物語本文の研究』、『もっと知りたい 池田亀鑑と「源氏物語」全4集』、『日本古典文学翻訳事典 1・2』、『平安文学翻訳本集成』他多数。